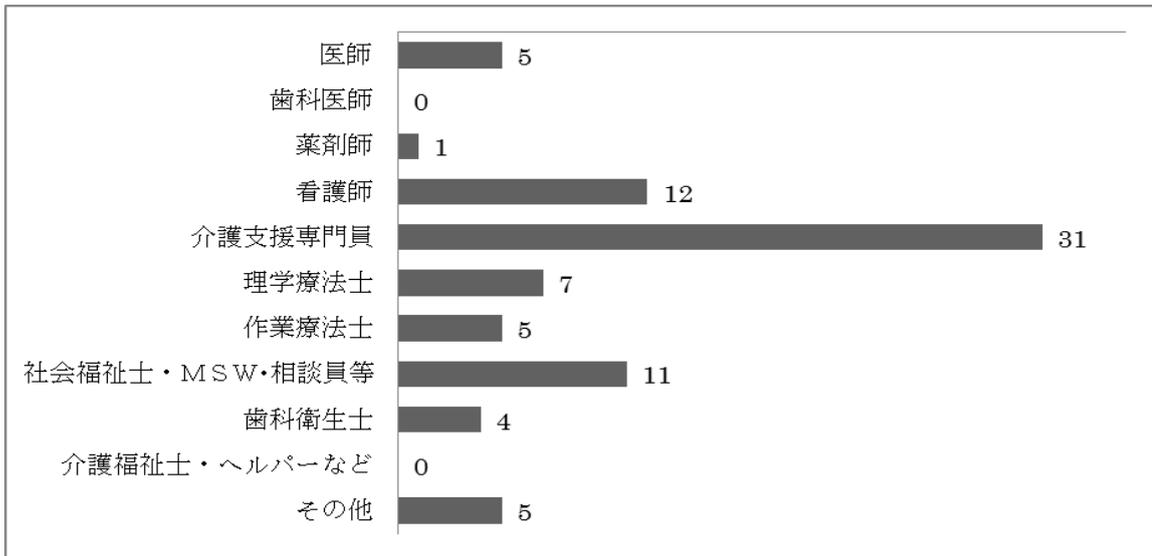


第6回在宅ケア多職種連携活動発表会 アンケート（結果）

平成30年11月16日（金）19時～
ウエルパルクまもと

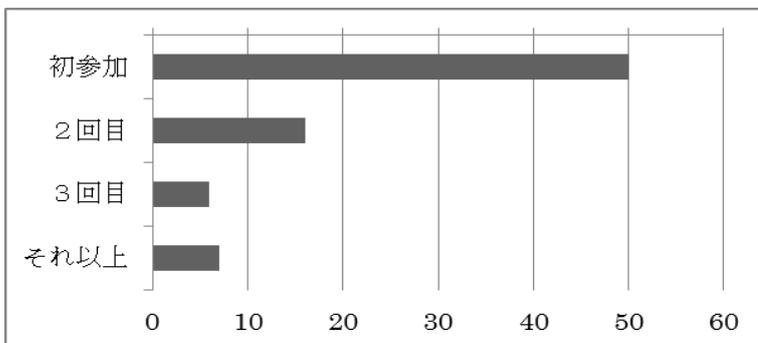
回答数 79 / 出席者 102（回答率 77.5%）

職種（複数選択可）

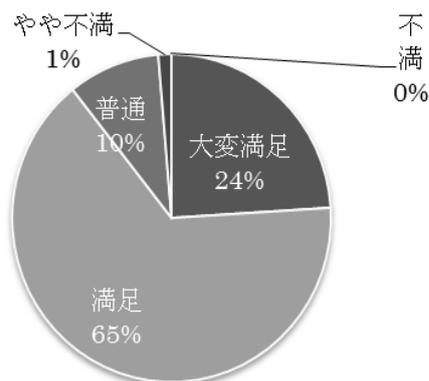


その他・・・保健師、言語聴覚士、他未回答

1 この活動発表会に何回参加をしたことがありますか。



2 本日の活動発表会はいかがでしたか。



3 ご感想

(多職種連携について)

- ・ 「多職種連携」という言葉はよく聞きますが、実際に有志で立ち上げ、活動されている方々の発表を聞いて勉強になりました。自分の仕事の範囲を狭めず、人との出会いつながりを大切にしていこうと思いました。
- ・ 多職種の方々のお話を聞く機会が限られているため現場の方々の声が聞け良かったです。
- ・ 地域における多職種連携、とても大切であり、住民からすると安心感が大きくなるものだと感じました。いざ家族が介護対象になったとき、その誰に相談すればいいのか明確に分かりなおかつ様々な職種の方の連携が強いと安心です。
- ・ 実際に包括に勤務した職種連携の重要さは分かりますが、なかなか案内しても出てきてもらえない状況です。今日の発表を聞き、しっかり目的を持って内容を作り上げることが重要なことが分かりました。

(地域の取り組みについて)

- ・ 他の区の取り組み、連携がわかり励みになった。
- ・ 各地区の取り組みやその内容がわかりやすく、とても勉強になりました。
- ・ 地域包括への様々な取り組みが聞けて参考になりました
- ・ 各団体ごとに良い活動をしていることが知れてよかったです。地域の中で活動のことやそれぞれの団体が集めた情報を地域の中でどのようにして共有し活用につなげられるかが課題だと感じました。
- ・ いろんな地域でいろんな取り組みが開催されており、今後も楽しみです。いい刺激になりますので今後も続けてほしいです。
- ・ それぞれの区の取り組みが判って参考になった。「やる気」はなかなか難しい課題。
- ・ 各区での取り組みの良いところを他の区で共有できるような取り組みがあればと思います。良いものはどんどんパクリ。ブラッシュアップしてまた共有するサイクルができればいい。特に生活を中心として競争しながら高めあう、シェアしあう関係作りが理想ですが、学べる、お土産のある会も必要ですが、ただ集まる会、安心できる場も実は大切だと最近は感じています。両輪で回すことで学びの場からこぼれがちな人を拾っていくことも続けてほしい。

(東区主任ケアマネについて)

- ・ 東区主任ケアマネの会 各部会でリーダーがいて活動をしていることは参考になった。
- ・ 東区の主任ケアマネの会(H22～実施している)の活動を知り西区はとても遅れていると痛感。内容がわかり西区も参考にして活動できたらと思います。

(ざっくばらん会について)

- ・ ざっくばらん会 無料でPTが訓練する。どこでも行います。とてもすごいことだと思った。
- ・ ばらん会が成長している。
- ・ 同じ西区から参加しましたが、ざっくばらん会の存在を初めて知り、今後、リハ専門職不在の法人なのでぜひ介護指導などお願いしたいと思いました。

(南来あるサーについて)

- ・ 南来あるサーエチケット集おもしろいです。ためになります。
- ・ 南区の活動に感銘しました。参考にさせていただきます。
- ・ 多職種連携の視点でエチケット集を活用していきたいと思います。
- ・ 南来あるサーエチケット集、一見とても素敵に思いましたが、在宅目線からのエチケット集のように感じました。病院職員としては、ん～？と思うところもあります。作成するにあたって急性期HP

の Dr や回復期 HP の Dr、セラピスト、MSW 等が入っていたのでしょうか？CM さんも病院を怖がらず積極的に病院に来たり、疑問質問投げかけて下さい。それと来院される前にアポとって来て下さい。ということを追加していただけたらと思います。

(ともにメディサポについて)

- ともにメディサポ 入院、退院時の MSW、病院連携の見える化なども分かりやすかった

(河内芳野校区について)

- 河内芳野校区 高齢化、第一次産業が多く収穫時期の忙しさ、地域の現状がある中で地域住民の意見を活動に取り入れておられることはすごいと思いました。

(その他)

- 参加 3 回目ですが、続けて参加することが大事だと思っています。
- 毎回楽しみに参加しています。活動を参考に私たちは何ができるか、どうなりたいのか考え行動したいと改めて思いました。
- インフォーマルサービスの充実を図っていくことが大切であるが、地域地域で人口の偏りもあれば、生活支援や高齢化など問題点もさまざまである手間地域包括ケアに答えはなく、関係者 1 人 1 人が考える。そして、集い話す。且アクションを起こし、どうだったかのアンケートを取る。これが地域包括ケアの進め方 (各地域に合った) と感じました。
- 集まる方が、若い年代の方が少ないことが少し気にかかりました。人材不足、5 年 10 年といった先の予測も考えながら少し活動にも協力できるようにと思います。